

# 経営比較分析表

神奈川県 鎌倉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Ac1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	97.09	85.09	2,260

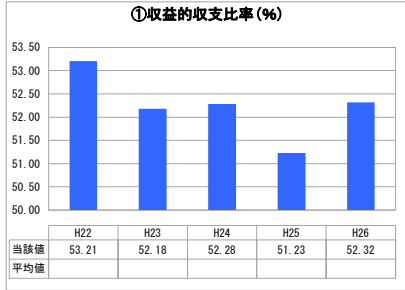
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
177,458	39.66	4,474.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
172,090	24.02	7,164.45

**グラフ凡例**

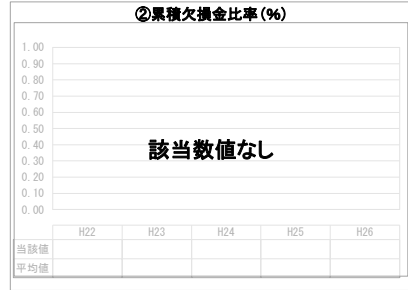
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成26年度全国平均

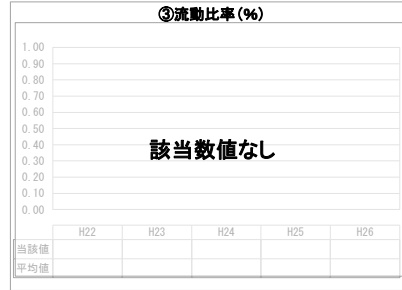
## 1. 経営の健全性・効率性



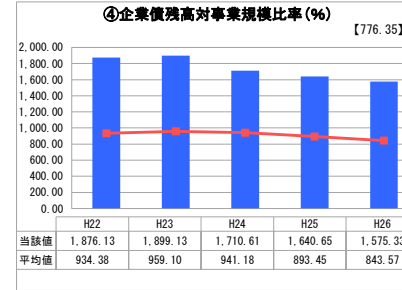
「単年度の収支」



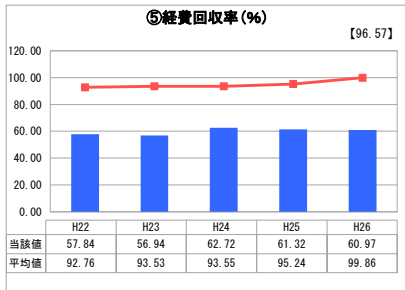
「累積欠損」



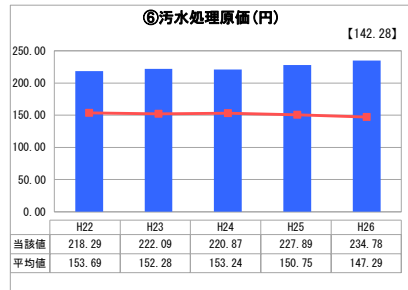
「支払能力」



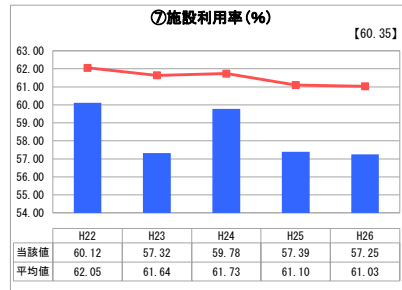
「債務残高」



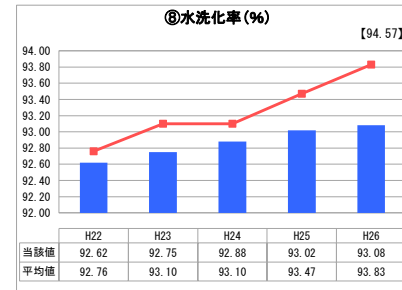
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

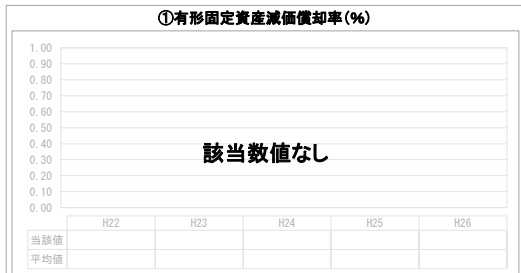


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

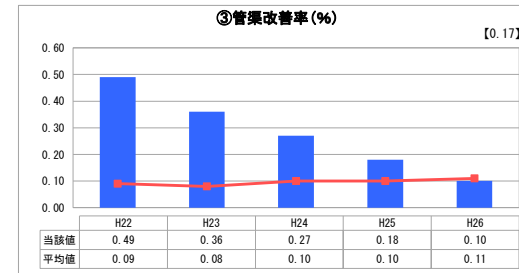
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・収益的収支比率100%未満、企業債残高対事業規模比率及び汚水処理原価は類似団体内で高い水準、経費回収率、施設利用率及び水洗化率は類似団体内で低い水準となっています。
- ・これは、本市が昭和30年頃からの急速な人口増加による河川の水質汚濁等を契機に、早期の公共下水道の普及を目指し、整備を行ってきたこと、また、地形的制約などにより、下水道終末処理場2箇所、汚水中継ポンプ場7箇所及び汚水低地排水ポンプ施設57箇所を有していることが要因となっています。
- ・下水道使用料は、平成19年度に19.9%、平成24年度に10.0%と段階的な料金改定をしており、今後も、社会情勢や経済状況に注視するとともに、市民負担を考慮し検討します。
- ・水洗化率については、戸別訪問による啓発活動や多角的な広報活動により、積極的に普及促進を行っており、さらなる水洗化率の向上を図っています。

### 2. 老朽化の状況について

- ・本市の汚水管渠は、昭和33年度から布設しており、老朽化が進んでいることから、施設の老朽化対策を積極的に進めてきました。
- ・今後は、平成27年度に策定予定の「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」に基づき、計画的な維持管理、補修更新を行います。

### 全体総括

- ・厳しい経営状況にありますが、今後は、地方公営企業法の適用や経営戦略の策定を予定しており、これらを通じて経営状況を的確に把握するとともに、経営の健全化に努めていきます。
- ・下水道使用料については、本市の地域特性を踏まえ、他市の状況を考慮し、適正化を図ります。
- ・下水道施設全般について、平成27年度に策定予定の「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」に基づき「予防保全型管理」を行うことにより、更新費用の圧縮と平準化を目指します。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。